

連載：原点

「自信」

八千代西高等学校 橋本 博己

私がこの原稿の依頼をうけた際にテーマが【原点】であると聞き、なぜ自分は教員を目指したのか改めて見つめ直しました。そして、中学校で陸上部に入部したことが私の原点であると考えました。

小学生のときの私は自分に自信がなく、人前に立つことも苦手でした。しかし、中学校で陸上部に入部したことが私の人生を変えるきっかけとなりました。陸上部で毎日練習していくなかで少しずつ記録が伸びていき、県大会出場や入賞という結果を得ることができました。その過程や結果を通して自分に自信がつき、人前に立つことが苦手だった私が部活動や学校生活の中でリーダーとして活躍できるようになりました。そういう自分を成長させてくれた中学校の恩師に憧れて教員を目指すようになりました。そして、大学を卒業し、2年間の講師経験を経て、3度目の教員採用試験で合格することができ、今年度から初任者として八千代西高校に勤務することになりました。

八千代西高校に勤務してもう少しで半年が経ちますが、八千代西高校の生徒は自分に自信を持っていなかったり、やる前からできないと決めつけたりする生徒が多いように感じます。そうした生徒に対し、私が部活動での成功体験がきっかけで自分に自信がもてるようになり、人生が変わったように、学校生活や部活動の中で生徒にたくさんの成功体験をさせてあげたいです。数学の授業では、「できた!」「わかった!」と感じてもらい、自分に自信が持てる生徒を一人でも多くしたいと思います。そのためにも、私自身が人間性や専門性を高めていき、自分にもっと自信をつけ、生徒のために全力を尽くすことのできる教員を目指して頑張っていこうと思います。

「刺激的な日々を過ごして」

県立船橋高等学校 伊藤 百合子

4月から教員として勤務することが決まりました。「大きくなったら学校の先生になりたいです。」と、小学校の卒業式のときに体育館で叫んだことを思い出しましたが、県外出身の私でも名を知る県立船橋高等学校で教員生活のスタートを切るとは思ってもいませんでした。

赴任してから、驚かされたことがたくさんあります。まずなんといっても、授業についてです。教育実習でしか授業を経験したことがない私にとって、「教科書に載っていることはできて当たり前」と先輩の先生に言われたことが衝撃的で、不安でしかありませんでした。実際に授業を行うと、1時間に教科書が4、5ページ進むという授業進度、生徒の理解の速さ、授業後に質問に来る生徒の多さにも驚かされました。4月当初は気合を入れるためにエナジードリンクを飲んで臨み、授業が終わってからへろへろになっていたことをよく覚えています。今では少しずつ自分のペースが掴めてきましたが、教材研究は日々格闘で、授業後は一人反省会が多々開かれます。徐々に自分の引出を増やしていき、生徒も自分も楽しめるような授業作りに励んでいきたいです。

次に、生徒の行うイベントの質の高さです。理数教育に力を入れている高校が集まり、小学生や中学生を対象に理科の実験や解説、ポスター発表を行う、サイエンススクールフェスティバルに参加する機会がありました。恥ずかしながら自分も知らない内容がたくさん展示されていました。小学生には難しい内容のものも自分なりの言葉で実験を通して飽きさせない解説を生徒がしており、まさに自分の目指している授業を生徒から学んだ気がしました。生徒に負けぬよう、自分なりの言葉で語り、生徒を惹き付ける授業を目指したいです。

さらに、部活動に一生懸命に取り組む生徒の姿にも驚かされました。勉強や行事に取り組みながら、部活動にも積極的に参加することは簡単にできる事ではないと思います。土日も活動をする部活動が多く、試合でも良い成績を残すような生徒がいるということは本当に素晴らしいことです。時間をうまく使い、学校生活を充実させられるように文武両道の精神を尊重し、顧問としての指導も学んでいきたいと思っています。

好奇心旺盛でやる気のある生徒が集まっている学校。初任でこのような学校に勤務することができたのは、大きなプレッシャーと同時に、自分を高めることができる絶好のチャンスだと感じています。次の学校で今学んでいることがそのままの形で生かせるかわかりませんが、まずはこの学校で無我夢中に頑張っていきたいと思っています。まだ教員生活が始まって3ヶ月しか経っていません。今だから新鮮に感じることを大切に、これからも生徒と関わっていききたいです。

「好きなことを仕事にする」

船橋啓明高等学校 江戸 将

両親が高校の教員だったということもあり、私は小学生の頃から高校の教員になりたいと思っていました。しかし、高校に進学してその生活を送るうちに、進路に迷いが出てきました。「毎日の授業やHR、部活動…その中で常に生徒に目を配る。」要領の悪い自分にこのようなことが出来るのかと不安になってきたのです。数学が好きで理系の授業を多く選択しましたが、就職を教員だけに絞りこむことが出来ないまま、大学は数学科以外を受験しました。そんな私が再び教員を目指し始めたのには、大学時代に2つのきっかけがあったからです。

1つめは大学時代のテニスサークルでのことです。高校からテニスをしていたこともあり、初心者班のコーチをさせてもらって 있었습니다。初めは指導も思う通りにいかず、班員達の試合成績も伸びませんでした。それでも諦めずに練習を続けていくうちに、初勝利する班員が出てきて練習にも活気が出てきました。その中でも運動が苦手な班員が初めて試合に勝った際、「コーチのおかげです。」という一言を聞いたときの喜びは、今でも忘れません。

2つめは、高校進学のための個別指導塾での講師のアルバイトの経験です。入塾した頃は、時間に遅れてきたり、宿題を忘れてきたりする生徒でも、三年間の指導で生活習慣は改善されて志望校に合格していきます。そんな生徒達は学力が上がることはもちろんですが、表情に自信が見られるようになったことです。

これらの2つのきっかけを通して、自分は人の成長を見守る仕事に就きたいのだと再認識しました。そして大学四年生になってから教員免許の取得を目指しました。教員採用試験もなかなか受からなかったのですが、初任になるまでには時間がかかりましたが、教員になった今はとても充実した日々を送っています。おそらく来年度は担任を持つことになると思いますが、生徒には、仕事の辛い部分だけを見るのではなく、好きだと思える仕事に就いてもらいたいと考えています。そして教員として、そのための努力を惜しまず、成長してくための手助けをしたいと思っています。